

観音寺市立学校再編計画検討委員会会議概略

(第5回会議)【公開用】

| | |
|-----|----------------------------------|
| 日時 | 平成20年8月27日(水) 午後7時30分～午後9時30分 |
| 場所 | 市民会館 第3会議室 |
| 出席者 | 委員20名(欠席なし)、 事務局6名 |

会議次第

- ・ 議題
- 1. 学校再編の具体的方策について
- 2. その他

討議概要

(会議録署名人を指名後、議題に入る。)

1. 学校再編の具体的方策について(前回より継続)

- ・ 小学校について、前回、各委員から提案を受けた再編案のパターンを整理し、その他の提案があるか意見を求め、それらに基づいて議論を進めていくこととした。
- ・ 提案の組み合わせに共通性が見られるブロックごと個別に検討していくこととし、小中の連携を考え、今の中学校区を基本ブロックとして小学校の再編を考えること、中学校区と整合しない組み合わせについても排除しないで議論した。今回は、観音寺中学校区、大野原中学校区を中心に協議し、校区に隣接する小学校との関係も議論した。
- ・ 適正規模の学校を実現するために、学校の規模、老朽化、耐震化の状況、人口推移の状況等を勘案して、短・中期(10～15年程度)で考えるべきものと、長期的に考えるものに分けて考えることとした。

◎ 委員発言の主旨(同種の発言はひとつに要約しています)

- * 幼小中の連携は重要だが、そのまま同じだとクラス替えができたとしても人間関係が固定化する恐れがあるのではないか。新しい人間関係の中で子どもが成長することもある。ひとつの中学校区で複数の小学校があるほうが、問題があるときに、子どもも保護者も逃げ場ができると思う。
- * 小規模校同士統合しても、近い将来また統合を考えなくてはいけないのではよくない。最初からそれを見据えた議論が必要だ。
- * 将来的に現在3つ以上の学校をひとつに統合する方向としても、一度に統合するか段階的に考えるかはそれぞれの状況によって判断が必要だと思う。
- * 学校がなくなると集落の過疎化が進行する。寺子屋的になるが分教場、分校という形でも残せないか。少人数のほうが、いじめとか不登校の問題が発生しにくいのではないか。
- * 地域の歴史を無視して、数の議論だけをしては住民感情の面から実現が難しいと思う。

- * いじめ、不登校の問題は（極）小規模校でもある。クラス替えができる規模なら環境を変えることも可能だと思う。
- * 地域の年配の方は学校そのものの存続にこだわるが、保護者、子どもは適正規模化で学習面やクラブ活動など選択肢が広がることを歓迎する傾向があるのではないか。
- * 極小規模になると、生徒男女比率の極端な偏りが発生したり、配置教員数が少ないことによる教科指導の問題、人数的あるいは指導者の面からクラブ活動が制限されるなどの問題があり、保護者が子どものことを考え転出するケースもある。逆に、地域の圧力を気にして転出しづらいということも聞いた。統合したことで転校の必要がなくなり地域にそのまま定着した例もある。
- * 地域の事情はあるだろうが、まず、子どもの健やかな成長のための教育環境を作り出すことが重要だと思う。そのために、適正な規模として各学年少なくともクラス替えが可能ということ話し合ったのであり、それを前提に話を進めなくてはならない。
- * 中学校区で考えると、小学校では通学補助を考えても、距離的、地域的に無理が生じる場合があるのではないか。
- * 学校が吸収されることには抵抗があると思う。まったくの新設なら1校で数十億円単位の話になり財政的には難しいかもしれないが抵抗感は少ないのではないか。
- * 街づくりという観点からは、学校をどこに置くかということで、人の流れを作ることもできると思う。
- * 幼稚園は2園ということだったが、根拠はなにか？
（事務局回答：子どもの数の予測から民間法人の幼稚園、保育所の状況を考えると、市立幼稚園は2園で適正規模になるのではという考え。具体的に場所や財源の話が固まっているわけではない。）
- * 校区に関しては現状のものを前提としているが、再編の議論をふまえて、変更の必要性が出てくる場合もあるのではないか。
- * パブリックコメントを求めるにあたっては検討委員会としてベスト、ベターな案を提案したいが、パブリックコメントをうけて変更することもあるという柔軟さを持って臨みたい。

2. その他

- ・ 次回会議の日程を9月25日木曜日と決定した。